

南国市連合婦人会(浜田弥芳会長、会員二百三十五名)は四月十一日、同会「結成二十年を語る座談会」を社会福祉センターで開きました。

この座談会は、市が発足すると同時に結成(昭和二十五年二月三日)された市婦連の二十年間に及ぶ活動の「思い出」や「苦労話」について話し合い、近く「二十年史」を出版しようという企画し、開かれたもので、初代会長の岡林政衛さんをはじめ、歴代会長や副会長

ら十六名が出席。昔の苦労話やつらい思い出、涙ぐんだり、笑ったりして、二十年を振り返っていました。

まず、浜田会長から「市連合婦人会も結成以来二十年になり、一つの区切として『二十年史』を作ろうということになりました。婦人会もいろいろの面で発展して来ましたが、今月は昔のことをいろいろ思い出しながら話し合いたいと思います」とあいさつがあり、さっそく話し合いに入りました。



市連合婦人会が「20年を語る座談会」

# 二十年の年輪

## 二十年の思い出

市婦連の活動の柱と言っても過言でない「市政会議」について、まず主なものをひろってみたい。

市婦連になって初めての大きな行動と言えば、「模擬市議会」だと思います。当時は、池川市長で、婦人会館建設問題について討議した記憶があります。一般男性の傍聴もあり、会場いっぱい盛況で、採決時には全員が賛成するのはおかしきと言ったので、反対する者もいるようにあらかじめ決めていたと思います。

三十七年には、模擬市議会を「市政会議」と改め、議員が執行部に、婦人が議員になってやりました。その時に、ある地区に道路が出来たが利用価値が少なく、その事を追求したら、地元選出議員が答弁に立ち平謝りに謝りました。はずかしいやら困ったことやら……。(笑)

また、当時の助言者が議会形式なので、女性らしくやってはいけない。男性のふんい気や「ガイ」にやらないと面白くないと言っているので、その意気込みでやりました。(笑)

四十七年には、「ゴミ袋無料配布問題」があり、無料はちよっと行き過ぎではないかという意見が多かったように思う。この時期から市の財政がひっ迫して来りましたね。

五十一年には「むだを無くする都市宣言」をしてはという提案をしたが、市長にはねつけられ苦しい思い出もあります。

五十四年にはちよっと選挙の年であり、「明るい選挙の推進」を呼びかけ、議員に約束してもらいましたね。国際婦人年にちなんで婦人の地位向上のために、婦人教育委員の設置と婦人の家建設の提案もしました。

この機会にぜひ婦人会を再スタートさせようということになり、婦人学級(大正琴、花道、手芸)も火を消さないよう続けて来りました。(白木谷)

一時は五十余名の会員で、地区にも活気があった。三十七年からダム建設が始まり四十二年まで続いたが、この時期には人口も増え、生花や料理教室も活発でした。

## 地区婦人会活動

下部組織での苦労話や活動の思い出が、たくさんあると思いますのでご発表を……。

五十一年に婦人学級としての生け花教室を始めましたが、次から次へと会員が増え、一時は六十八人となりうれしかった。現在、四十人で長く続いています。(千市)

婦人学級をはじめ、今では七十のクラブが出来て発展しています。ほんとうにうれしくことです。会長は二年交代にしようというつもりで、とにかく二十年間休まずに続いて来てほしい。(福生)

はすかしい話ですが、農協婦人部が発足して以来、四十年から休会が続いています。なんとか持ち直したいのですが……。(三和)

二十二、三の部落がいずれも熱心に活動を続けていきましたが、ある時期八部落しか活動していなかったことに気づき、これではいけないという事で呼び起しに行ったことでした。

なんとか続けていくためには、地に足をつけ「和」をもって地道に活動しようではないかという気持ちにみんながなってきたよう。人間関係の「和」を作ろうということに心がけて来ました。なんとといっても、たくさんの友だちが出来たことがうれしい。(大藤)

婦人学級の楽しかったことを思い出します。親睦の場としての婦人会を育てて行きたい。(日章)

テレビが普及し始めたころ、みんなでテレビを見ながら学習しました。ほんとうに楽しかったように記憶しています。今の婦人会は、農協婦人部とタイアップして活動しており、各部落が独立歩でやっていたのになった。うれしくことです。(前浜)

各地の婦人会活動が活発になっているのに、後免町には婦人会がなく、ドーナツ現象をおこしているが、各地区に取り残されてはと公民館婦人部を作ったことにかくスタートした。

始めたころは休会が続いたが、やがて多くの学級(茶道教室など)を開き活動を広め、会員を募った。今、ちよっと十年目のカベに突きあたり、盛り上がりが少なくなってきているのが心配です。(後免)

地区婦人会と農協婦人部とは別にして歩んでいる。生花教室は七年続け、楽しい思い出になっています。(野田)

福生を見ながら、会長を当番制にして現在に至っています。あの十号台風(四十五年八月)の時には、全員が出て「婦人会の炊出し」を協力し合ってやりました。婦人会があつてこれほど良かったと思つたことはありません。四十六年には大正琴も始めたし、希望の家への慰問も行つてまいりました。(長岡)

婦人会活動は、奉仕の精神でやってきました。その外、テーブルマナーやチャイミングスクールを開き勉強したことが、とても役立つと思つています。(久礼田)

学習会も活発にやっていたが、最近役員会になりきつて休会しようということもなつたが、火を消してはならないということで、細々とやっています。(瓶岩)

四十七年、公民館が出来たので、この機会にぜひ婦人会を再スタートさせようということになり、婦人学級(大正琴、花道、手芸)も火を消さないよう続けて来ました。(白木谷)

一時は五十余名の会員で、地区にも活気があった。三十七年からダム建設が始まり四十二年まで続いたが、この時期には人口も増え、生花や料理教室も活発でした。

## これからの婦人会活動

この機会にぜひ婦人会を再スタートさせようということになり、婦人学級(大正琴、花道、手芸)も火を消さないよう続けて来ました。(白木谷)

一時は五十余名の会員で、地区にも活気があった。三十七年からダム建設が始まり四十二年まで続いたが、この時期には人口も増え、生花や料理教室も活発でした。

このように会員も少なくなり、中央の婦人学級へ出向いて勉強せざるを得なくなったが、火を消さないよう細々とやっていますし、公共施設の清掃、清風園への慰問、敬老会の開催など、二十年間続けて来たことは自慢できます。(恵徳)

ダム建設が終ると人口の減少に伴う過疎現象が起き、五十三年の小学校閉校になるわけです。

このように会員も少なくなり、中央の婦人学級へ出向いて勉強せざるを得なくなったが、火を消さないよう細々とやっていますし、公共施設の清掃、清風園への慰問、敬老会の開催など、二十年間続けて来たことは自慢できます。(恵徳)

この機会にぜひ婦人会を再スタートさせようということになり、婦人学級(大正琴、花道、手芸)も火を消さないよう続けて来ました。(白木谷)

一時は五十余名の会員で、地区にも活気があった。三十七年からダム建設が始まり四十二年まで続いたが、この時期には人口も増え、生花や料理教室も活発でした。

このように会員も少なくなり、中央の婦人学級へ出向いて勉強せざるを得なくなったが、火を消さないよう細々とやっていますし、公共施設の清掃、清風園への慰問、敬老会の開催など、二十年間続けて来たことは自慢できます。(恵徳)



20年の思い出を語る歴代会長や副会長